

会話も弾む人情朝市

【連尺学区】<sup>ふないち</sup> 二七市

《学区データ》

学区名：連尺学区

世帯数：4,233世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：八幡町発展会 二七市部会

事業開始年度：昭和30年度



◆取組のきっかけと経緯

戦後間もなく、ヤミ露店市場が市内の様々な箇所に乱立していましたが、現在の八幡町周辺に“中央マーケット”として統合されました。売り手と買い手が身近にふれあい、素朴な会話を楽しみながら気楽に買い物ができる市場は当時の庶民に愛され大盛況でしたが、百貨店や大型店舗の誕生など、時代の変遷に伴い、解散となりました。

八幡町は市の中心部に位置しながら、隣接町の商業発展と比較し、立ち遅れてしまいました。しかし、町内の商業を振興し、以前のような活気にあふれた町にしたいという思いから、1955年に「八幡町発展会」が設立されました。発展会を中心に住民や出店者と協力への交渉を行った結果、大型の店舗とは異なった様式の、人情があふれ、楽しい雰囲気露店市場を二七市として再び開催するようになり、今年で開始から59年目となりました。

◆事業内容

毎月6回、2と7の付く日（2、7、12、17、22、27）の、午前9時～正午まで、連尺学区八幡町で朝市を開催しています。二七市開催中は、事務所に発展会の役員が常駐し、来場者及び出店者の安全を見守っていますが、交通事故などを防止するために八幡通りに車両通行止めの規制を行っており、ふれあいや買い物をゆったりと安心して楽しめるように配慮しています。また、付近の住民の方には、開催に伴う交通の不便や騒音、ごみ、においなど様々な理解と協力を依頼しており、誰もが開催を楽しみにできる環境づくりを地域をあげて取り組んでいます。

主催者である八幡町発展会二七市部会は来場する方に楽しんでもらうことを第一に考えています。そのため、多くの事業者が朝市に出店しやすいように、出店のための要件は設けていません。現在、46軒の露店が出店していますが、その販売品目は鮮魚、野菜/青果、植物、惣菜、菓子、乾物、衣類、雑貨など様々です。また、出店する業者も市内からだけではなく、近隣の豊田市や蒲郡市をはじめ、名古屋市や一色町など県内からたくさんの業者が二七市に出店しています。

二七市は人と物の一大交流の場として、地域においても欠かすことのできない「市」として継承・継続してきました。

## ◆成果

二七市にみえるお客さんの半数以上はご年配の方です。普段はなかなか外出をされない方でも二七市の日は外に出て、お話をすることを楽しみにしており、時には数十年來の同級生と再会することがあるなど、身近な買い物の場というだけでなく、地元のふれあいの場、元気を提供してくれる場として欠かせない存在になっています。

また、近隣の小学校の社会体験授業の受け入れを行っており、小学生が店番として働いたり、宣伝のポスターを作成したりと、実践的な計算や幅広い世代とのコミュニケーションを学ぶ場、日ごろの学習の成果を発表することができる貴重な存在となっています。

## ◆今後の展望・課題

現在、二七市にみえる方の年齢層は限定されつつあります。今後も二七市を存続させていくためにも、幅広い年代の方に来場してもらい、魅力を知っていただく必要があります。2015年は二七市の初開催から60年という節目を迎えるため、その記念に合わせ、これからも多くの人に愛され、来場してもらえるよう新たな催しを開催し、二七市を盛り上げたいと考えています。



また、地元の方だけでなく、市外や県外の方にも59年続く朝市に来場し、その雰囲気を感じていただきたいと思います。二と七の付く日には岡崎城などの観光名所だけでなく、二七市にも来てもらえるよう、市や市内の施設と協力しながら積極的な周知をしていきたいと考えています。

### こんな工夫をしています！

#### ● まちバス利用で地元以外からのア

#### クセスをサポート

→ 二七市を開催している八幡通りは、市内の中心部に位置しており、付近にはまちバスを含め多くのバス停があり、アクセスはとて良くなっています。

八幡町発展会はまちバス乗車券サービス店の加盟店になっており、車や自転車で来場することができない方でも、二七市を楽しみにして下さる方には気軽に立ち寄ってもらえるように希望する来場者の方には乗車券をお渡ししています。

### 注目ポイント！

#### ● 1955年の設立から59年の歴史

→ 大型店舗に対抗する形で始まった二七市ですが、最も盛況だったころには、来場者数は毎回1万人を超え、出店店舗数は200軒、1日の売上も大型スーパーに匹敵するほどでした。現在は後継者不足などで出店店舗数は徐々に減少し、大型店舗との競合で来場者数も最盛期ほどではありませんが、出店する店舗の数は40以上、来場者は3000名を超えており、賑わいや活気は失われていません。

また、荒天時を除き、雨天であっても開催されます。こうした主催者と出店者の努力もあり、二七市は59年間続いています。